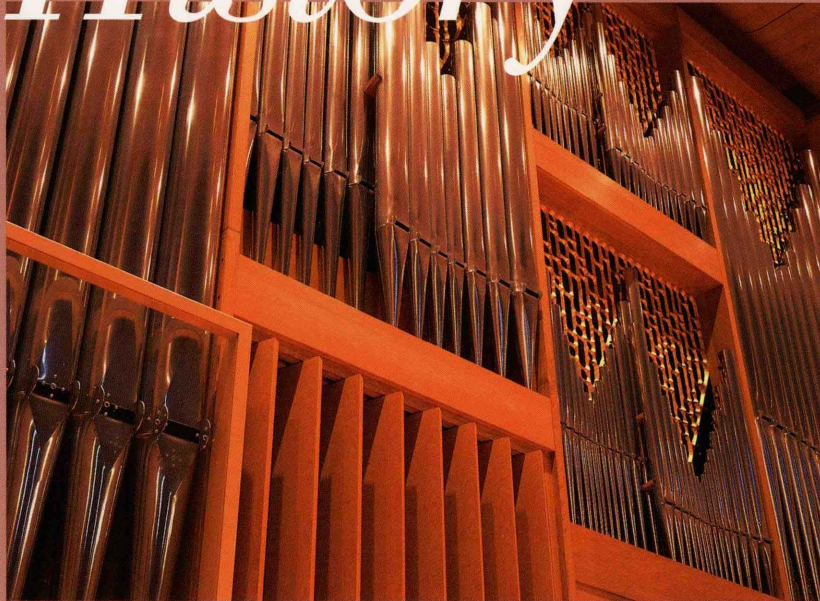


Fifty Years of History



50年のあゆみ

1947年(昭和22年)

9月 1日 幟町カトリック教会司祭館(ついで幼稚園舎)に
「広島音楽教室」を開設。

1948年(昭和23年)

3月31日 広島音楽学校の設立認可。
4月 1日 広島音楽学校開設。
4月16日 広島県知事臨席のもとに開校式を挙げる。
9月15日 邦楽科(箏曲、尺八)附設。



■ゴーセンス校長



■終戦直後の幟町教会のスタッフ



■当時の幟町教会

昭和23年の思い出 由居 学(旧師)

被爆後向う幾年か草も生えないと云われた昭和23年、焼野が原にバラックが点々と建ち始め、エリザベト音大の前身である広島音楽学校も希望に萌えた新芽を出しました。校舎はモルタル2階建てで東側窓からは焼けこげた電柱の向うに広島駅ホームが近くに見えていました。学校は本科「3年」選科「自由」の2コースがあり本科は当時の音大とほぼ同じ授業内容でした。この頃は全て不足の時代で先生から曲を戴くと先づ楽譜を写譜してから練習するという具合でさまざまな苦勞もハングリー精神で克服しました。当時校長のゴーセンス先生は学生に対し精神的に大変厳しく、先生の授業では、「音楽芸術は神の道です。大変大変厳しいです」と情熱的に独特な日本語で何時も云って居られた事は忘れることができません。又反面、学校近所の小さい子供達が「ゴーセンチャン、あそびましょう。」と訪れると校長が玄関に出て子供達の頭を撫でて居られた姿など今は懐しく想い出されます。

大きくなったエリザベト音大 中野 節子(中野箏曲楽園)

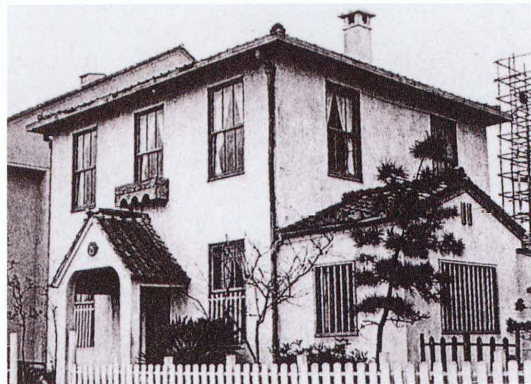
私が出会ったのは1948年8月でした。戦後の荒れはた日本文化を發展させよう云うゴーセンス神父さまの、なみなみならぬ熱意が学校全体に充ち溢れていました。ピアノ、バイオリンは云うまでもなく絵画、フランス語の教室もなかなか盛大であったことを印象深く覚えています。絵画教室から箏曲教室へもみえていましたし、ピアノ科の方もみえていました。暫くして「ピアノは蓋をあければ弾けるけど、お箏は手間がかかるし自分で調絃しなければ弾けない」と云われた事を今も覚えています。当時の箏糸はすべて絹絃でよく切れました。それが今では殆どテロン絃で切れませんし台の前に腰掛ければ弾けるようになりました。また若い方達の情熱でオーケストラも演奏されるようになり、今のエリザベトの繁栄がすでに当時の流れの上にあったように思われます。

益々のご發展を祈ってやみません。



■音楽学校のバッジ

- 4月15日 絵画、華道(小原流)、茶道(表流)の各教室を増設。
6月20日 第1回定期音楽会を開催。
9月 4日 聖フランシスコ・ザビエル来日400年記念音楽会を開催。
ベートーヴェン:ミサ曲ハ長調。
(指揮:遠藤宏。NHK、全国中継放送。)
9月 広島カープ球団創設。



■音楽学校及び音楽園の校舎



■ザビエル来日400年記念音楽会



■音楽学校時代の総勢

「希望の人」に向かって ルチアノ・バルタニョリオ(旧師)

どの団体も、その創立者の精神は、時代を超えて脈々と流れ続けるものであるという。同じイエズス会の司祭として長く生活をともにした本学の創立者・ゴーセンス師の印象はといえば、いつも人に希望を与える人であった。そしてこれが、本学の教職員・在学生・卒業生を生かし続けてきた息吹であるように思う。確かにゴーセンス師自身が希望の人でなければ、様々な困難に直面した本学が、今日を迎えることはできなかったであろう。創立者の存命中に、本学は幾度か存亡の危機を経験したが、その度に、師がもつ「未来への希望」によって救われたのである。思えば、これまで本学の卒業生が、どのような分野でも、人びとから信頼され高い評価を得られたのは、このような創立者の息吹に生かされてきたからではなからうか。

「人に希望を与える人をつくる」。創立者のこの精神はまた、21世紀に向かって大きく羽ばたこうとしている本学が目標とすべき理想でもある。なぜなら希望こそが、どんな状況にあっても人に生きる力を与え、人を生かすものだからである。

- 1月 6日 財団法人広島音楽学校設立認可。
 4月15日 広島演劇教室を併設。
 11月 3日 第2回定期音楽会並びに絵画教室、
 演劇教室が参加する芸術祭開催。



■江田島へ出稼ぎ



■当時のスタッフ(リバーサイドホテル)

草創期の思い出 福田 昌作(旧師)

市中で見たポスターで、その存在を知り、私が生徒としてエリザベ音楽学校付属の絵画教室に入ったのは昭和25年4月のことだったと思う。今日、版画家として海外にも名前を知られている永瀬義郎先生が指導にあたっておられた。絵画教室のほかに、フランス語教室、邦楽教室、演劇教室、華道教室があった。演劇教室には当時広島の鳴沢教授、仁科助教授、藤原助教授等が演劇史の講義や実技の指導を担当していた。古月先生も来ておられたように記憶している。華道教室には小原流の先生が来ておられた。邦楽教室を担当しておられたのは勿論中野先生である。このように、まだ戦後の混迷から脱し切れていなかった広島で、集められる最高のスタッフをそろえた文化のセンターが出現したのである。

絵画教室では、永瀬先生が東京に居をうつされてから、新延輝雄氏がかわって実技を担当し、広隆軍一先生が美術史を講義された。絵画教室の受講生の中から中央画壇に活動しているもの、デザイン界の指導的立場にあるもの、室内装飾や商業美術を業としているもの、等々が輩出し、単なる素人の趣味のグループで終わらなかったことは注目してよいであろう。

昭和25年のある日曜日、音楽学校の演奏会を主体として、各教室も参加した発表会が開催された。当時、一般にこうした催しも少なかった頃で、まだ新しかったサビエル講堂に多数の人々を迎え、大した盛況であった。一種のミニ総合芸術学園の姿があったわけで、それは創立者ゴーセンス師の夢のささやかな実現であったのかもしれない。音楽学校が短期大学に昇格すると、各教室は順次閉鎖されたが、それは決して単なる消滅ではない。原爆の災禍で、一時は文字通り廃墟と化した広島に文化の種子を蒔き、豊かな実りに生長する若芽を見とどけ、戦後社会の復興とともに歴史的使命を終えて新たなチャンピオンにバトンタッチして退場したというべきであろう。

思い出 才木 幹夫(元中国放送プロデューサー)

昭和26年頃か、木造2階の神父館と、裏のバラック教室だけの時代。初めてのソルフェージュで易しかったので「シンコペーションが落とし穴だ」と思って書き取ると「才木、お前はひねくれとる」と太田司朗先生のお叱り。

又、教室が一杯で、サビエルホール(現セシリア)で山本秀先生のレッスンを受けた。心地よいステージで歌った事など懐しい。

或る日曜日、シュベルトのEs-Durミサをもって江田島の旧海軍兵学校内の進駐軍と家族を訪れた。ここは普通は正面から入るのだが、旧海軍の表玄関は棧橋である。

思いもかけず船で棧橋に上陸。戦時中、海兵に憧れた私には、演奏会よりも深い思い出となった。船上、ゴーセンス神父様は、お礼に頂いたのか、当時貴重だった外国たばこを自ら2本ずつ配られた。「未成年なのに」と思って受け取らなかった。これもひねくれていたのかも知れない。



■秩父宮妃殿下ご来校

- 3月10日 財団法人広島音楽学校を組織変更、学校法人
広島芸術学園認可。
- 3月11日 第3回定期音楽会。シューベルト：ミサ曲他。
- 3月26日 安川加寿子ピアノリサイタル。
- 6月21日 ベルギー国エリザベト皇太后、本校の後援者とな
られる。
- 6月24日 原智恵子、吉田貴寿ジョイントリサイタル。
- 7月 1日 「ベルギー音楽祭第1夜」（日比谷公会堂）を開催。
（広島芸術学園建設資金募集のため）
指揮：上田仁 演奏：東京フィルハーモニー
- 7月20日 「ベルギー音楽祭第2夜」。
原智恵子、諏訪根自子、東宝室内楽団。
- 8月 6日 高松宮殿下ご来校。
- 9月 1日 初めての民間放送始まる。
- 9月29日 秩父宮妃殿下ご来校。
- 9月30日 三笠宮殿下ご来校。
- 12月18日 第4回定期演奏会開催。
ヴェルディ：《椿姫》全曲。



■原智恵子、吉田貴寿ジョイントリサイタル

広島音楽学校々名改称

広島市鞆町広島芸術学園音楽学校長エルネスト・ゴーセンス師は昨年故国ベルギーに到り、日自文化親善の必要を説いて回ったが、7月3日ベルギー国文相ハーグメーユ氏からゴ師宛に次の如き手紙が来た。

エリザベト女王は広島音楽学校を自分の名を冠してエリザベト音楽学校と改称する案を嘉納され、女王始めハーグメーユ文相、ブルュッセル国立音楽学校長ポート氏メックリン音楽学校長ヴァンフェーユ氏はそれぞれ名誉顧問を受託するというのである。

8月6日原爆記念日に校名改称式が行われるが、同校では近々増築工事を始める。

同校々長ゴーセンス師は音楽学校の将来の方針について、広島音楽学校は白仏の音楽、美術、文学を研究する総合的な「エリザベト芸術大学」に発展させてゆくつもりであると。

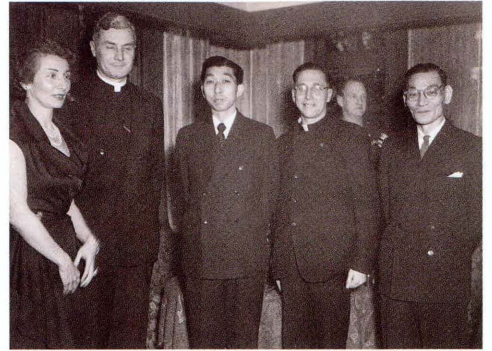
（『カトリック新聞』1951年8月5日号より）

思い出 山崎 登（広島音楽高等学校元教頭）

昭和23年秋「広島音楽学校に作曲の市場幸介先生あり」と聞き、早速編入試験を受けた。故ゴーセンス先生自ら、まず最初、これを歌ってみなさい。次、いきなりレコードをかけ、これを聴いて旋律を書き取りなさい。次、ベートーヴェンの生まれた年は？はい1770年です。（丁度その頃ベートーヴェンの書簡集を読んでいた）ハイ、ヤマサキサンハゴウカクデス。アスカラ、ガッコウニイラッシャイ。これで堂々と音楽学校の生徒になったわけである。後で解ったのですが、最初は、コンコーネの1番、レコードはシューベルトの弦楽四重奏の「死と乙女」だったようである。

在校中で最も印象深いものは、遠藤宏先生指揮で、ベートーヴェンの「ハ長調のミサ」の演奏会に出演した事。その時分、ミサとは、キリエ・グロリア…等、さっぱり解らぬまま歌ったものですが、それ以後の私の音楽人生の原点がそこにあったように思える。良いチャンスに恵まれた事を含めて感謝しています。

- 2月22日 エリザベト芸術学園後援会発会式。
(高松宮殿下ご臨席のもと、ベルギー大使館にて挙行)
- 2月24日 原智恵子、吉田貴寿ジョイントリサイタル。
(2年制音楽短期大学昇格記念行事)
- 3月 5日 広島芸術学園を学校法人エリザベト芸術学園に組織変更認可。
同時にエリザベト音楽短期大学の設立認可。
- 3月 8日 エリザベト音楽短期大学昇格記念祝賀会を本学にて開催。
(ド・ラ・シュヴァルリールベルギー大使夫人、並びに大使代理、
広島県知事、広島市長、その他来賓参列)
同夜、有松洋子、青木和子ジョイントリサイタル。
- 4月 1日 エリザベト音楽短期大学開設。
初代学長にエルネスト・ゴーセンス理事長就任。
- 4月15日 エリザベト音楽短期大学第1回入学式。
新入生38名。
学友会(学生会の前身)発足。
- 5月15日 第5回エリザベトコンサート。(原智恵子ピアノリサイタル)
- 5月21日 スペイン大使フランシスコ・ジョルステーヨ氏来校。
- 7月10日 元駐日ベルギー大使ド・バゾンピエル男爵来校。
- 7月15日 三次特別公演の途中、バスが転落。
- 10月31日 文部省視学官諸井三郎氏来校、講演。



■後援会発会式



■短大開設



■ド・バゾンピエル男爵来校



■短大弓道場開き



■エリザベト音楽短期大学開学祝賀会

昭和27年の思い出 1期 福間 武子

エリザベト音楽短大が開学し、講義が始まって5日目の4月25日、ゴーセンス学長の講義の最中に、後ろのドアが開き、突然私の母が亡くなったらしい、と事務の宮武さんからの報せに、学長に肩を押されながら室外に出た。まだ交通事故など珍しい時代の列車事故であった。今は無きサビエル・ホール2階の聖堂で、突然帰天した母の葬儀ミサが行われ、入学間もない学友たちが、レクイエムを一生懸命歌って下さった。

第二次大戦中、ベルギー人のゴーセンス師は、敵国人として三次の刑務所に収容されておられたが、警察署長をはじめ、三次の方々が大変暖かく接して下さったことで、深く喜びと、慰めを感じておられた。その感謝のため、開学第1回目の演奏旅行はどうしても三次で、との学長の堅い望みで、7月15日、学生一同、男女2台の赤バスで三次へとむかった。ところがである。吉田町で休憩し、男子のバスが先発し、後から走り出した私達の乗った女子のバスは、長雨でゆるんでいた路肩が崩れ、道路脇2メートル下の田圃の中に横倒しに落ちてしまった。男子のバスは何も知らず、三次へ三次へと……。市外電話が中々通じない時代で、学長は走行中のトラックを止めて事情を話され、2名の学生を同乗させて、三次への通報をさせられた。結局演奏会は、先送りになった。これまた、バス事故の少ない時代である。



■原爆資料を見学中のベルギー大使夫人



■建築中の平和記念聖堂と平和の鐘

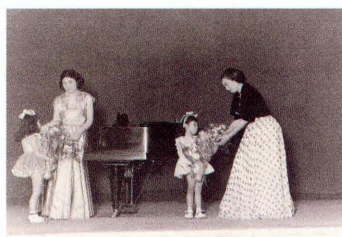


■5月14日全校職員学生岩国錦帯橋見学一行

- 2月26日 英国オックスフォード大学教授ダーシー博士来校。
3月16日 ベルギー国寄贈のパイプオルガン、サビエルホールに設置。
3月29日 **第5回定期演奏会。**
(ベルギー国寄贈パイプオルガン披露をかねる。)
ヘンデル：《メサイア》全曲。
指揮：安部幸明 特別賛助出演：藪田誠一
3月30日 **ベルギー大使夫人来校。**
4月15日 夜間部の開講式。
6月 8日 **第6回エリザベトコンサート。**
(古沢淑子フランス歌曲リサイタル)
9月21～22日 文部省視学官諸井三郎氏来校、講演。
10月 5日 ソロモン(ピアノ)来校。
12月10日 豊松昇ピアノリサイタル。



■第5回定期演奏会



■古沢淑子フランス歌曲リサイタル

昭和28年の思い出 0期・1期 古屋 良男

エリザベト音楽大学創生期(広島音楽学校時代)に、ゴーセンス・村上・市場の各先生と、当時、家庭的な愛につつまれ、今の大学発展に、礎となって協力した仲間達である。

敗戦での環境は厳しく、本科は夜間に毎日学科の授業があり、特に男子学生は、多くの者が下駄で登校、夕食は焼イモ……懐しい。又、学生の年齢差は大きく、多くの学生は、1期生として入学した。

昭和28年は、第2学年の時代である。学生数は少ないが、雰囲気は最高であった。冷暖房は無いし、ピアノ練習も苦勞した。又ピアノと音楽史の試験方法には悩まされた。

現在の学生には考えられない楽しかった思い出がある。1期生が遠足で宮島の弥山に登った事があった。ロープウェーは無く、紅葉谷を通過、約30分前後で登頂した。山頂での眺めは素晴らしく、皆んなで合唱をした。故人の方も多く、冥福を祈る。

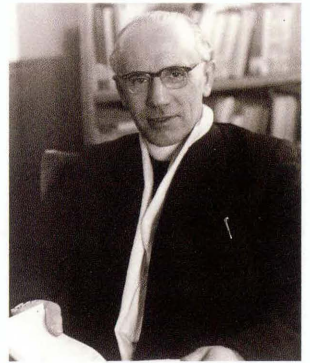
ホセ・プリエート師の思い出など 2期 茅原 隆之(竹本)

プリエート師がエリザベトにスペイン文化使節として来学されたのは、1954年11月6日。この年月日は水嶋良雄先生に調べてもらってわかった。プリエート師との出会いがあって、2期生、1期の卒業生と広大東雲分校の太田司朗先生の教え子何人かをまじえ、11月に九州、12月に入って京阪神、東京と各地での演奏旅行に出かけた。俄仕込みのスペイン語の歌も懐かしい思い出である。何を歌いどこに宿泊したか十分思い出せないが、プリエート師と姫路城内を話しながら歩いたときの師の白髪とメガネ、銀座ヤマハホールでの演奏でテレビカメラの珍しかったことなど40年ぶりに聞く卒業アルバムを見ながら思い出している。あのとき芸大の学生であった現井上一清学長に、太田先生と私達は学内を案内していただき、昼食にカツカレーを美味しく食べた。伝統ある大学の雰囲気を感じた。

- 2月20日 第6回定期演奏会。ハイドン：《天地創造》全曲。
- 3月13日 エリザベト音楽短期大学第1回卒業式。
(最初の中学校音楽科2級普通免許状授与)
- 4月 1日 宗教音楽専攻科(1年制)設置。
- 4月14日 短大女子学生寮聖泉寮(通称ゲーモール・ハウス)完成。
- 5月11日 文部省視学官諸井三郎氏来校、講演。
- 5月12日 最高裁判所長官田中耕太郎氏来校。
- 8月3・4日 木岡英三郎パイプオルガンコンサート。
(世界平和記念聖堂)
- 8月 6日 世界平和記念聖堂の落成祝別式、慰霊祭。
高松宮ご夫妻、ベルギー大使ご参列。
- 10月20日 BBC放送局、本学合唱団を収録し、ロンドンにて放送。
- 10月21日 ホセ・プリエート特別演奏会。(日比谷公会堂)
- 11月 6日 スペイン国際文化使節ホセ・プリエート神父来校。
- 11月10日 ホセ・プリエート神父パイプオルガンコンサート。
(スピリチュアルコンサート)
- 11月14日 ケンプ、ピアノリサイタル。(サビエルホール)
- 11月20日 第8回エリザベトコンサート特別演奏会。
(聖セシリア祝日記念)
指揮：ホセ・プリエート神父 演奏：広島放送交響楽団
- 11月22～28日 九州各地、山口へ演奏旅行。(福岡、長崎、熊本、大分、山口)
指揮：ホセ・プリエート神父 合唱：本学合唱団
- 12月1～12日 京阪神、名古屋、東京へ演奏旅行。(京都、大阪、東京、名古屋、神戸、呉)
指揮：ホセ・プリエート神父 合唱：本学合唱団



■田中耕太郎氏来校



■ホセ・プリエート神父



■プリエート神父の練習風景



■世界平和記念聖堂(8月6日)

聖泉寮の思い出 3期 鈴木 厚子(坂本)

大学構内に、グリーン色の板壁の小さな寮があった。寮長さんはじめジュニアとフレッシュマンの11人が、生活を共にした。座り机と柳行李に寝具、大切だった米穀通帳を持参して入寮した。まず、門限が5時、すぐに夕食という規則には驚いた。賄のおばさんはお料理上手で手製の白菜のお漬物はゴーセンス学長も好物だった。夕食の片付けと日曜の食事は当番で楽しく分担した。寮生の練習時間は、大学で大体午後8時から10時迄。終わってからは、夜鳴きそばを食べてオシャベリ、勿論勉強もして多忙。中庭から学長様の咳払いに慌てて消灯。今思うと、私達は学長様の暖かいお心遣いを戴いていたことに気付く。寮に入ったお陰で、ケンプの非公開のパイプオルガンの演奏を御聖堂に潜り込んで聴いたり、集中講義にいらしていた先生方とお話が出来たりと、沢山の得難い体験をさせて戴いたことなどを、感謝の念を以て思い出す。

- 2月27日 第9回エリザベトコンサート。
(関西交響楽団と本学合唱団との合同演奏会)
指揮:ホセ・プリエート神父
- 3月19日 本学第2回卒業式および宗教音楽専攻科第1回修了式。
- 5月4~8日 本学学生四国へ宗教音楽演奏旅行。
- 5月11日 西ドイツ放送局、本学合唱団を収録。
(原爆投下10周年の企画)
- 5月16日 ニューヨークの放送局が本学に収録のために来校。
- 7月19日 オペラ《手古奈》初演。(宮島)
- 10月22日 オペラ《手古奈》再演。(福山市、岡山県井原町)
- 11月 7日 同上オペラを三次市と庄原市で再演。



■四国演奏旅行(ドミニコ会宣教50周年記念)



■オペラ《手古奈》

スペイン文化使節 ホセ プリエート送別記念
関響 関西交響楽団
特別演奏会
—— スペイン音楽の夕 ——

曲	セヴィリア交響曲	前	主
目	角 帽 子	後	要
	ミサ ジェシパラル	券	美
	合唱 エリザベト音楽大合唱団	立	店
		席	エ
		¥300	リ
		¥200	ザ
			ベ
			ト
			ホ
			ル
			ホ
			ル
			ホ
			ル

山陽ビル、宮島ビル
各種楽器修理・コピー
〒730-0001 福山市 中山楽器店
広島県高橋二丁目電話246-4377

とき・2月27日(日) 午後2時(2期)
午後6時
とび・サビエルホール
主催 エリザベト音楽短期大学

■ポスター

手古奈の思い出 3期 村田 華枝(福永)

—今は昔、真間の里に姿も心も美しい乙女がいた。その噂をきき密かに手古奈を求め、1人の旅人が訪れる。手古奈も心をひかれるが村人達を慕う手古奈を苦しめては、と旅人は村を去って行く。失意の手古奈は潮音にひかれ海に身を投じる—。哀愁おびた、大歌劇「手古奈」は昭和30年のゴーセンス学長誕生パーティーの出し物に水嶋先輩が選ばれたのでした。情報過小な楽譜だけを頼りに水嶋氏と3期生は正真正銘の手作りで、宮島にてデビューしたのです。3期の鈴木氏から楽譜と共に借りた手書きのローマ字入りのプログラムは、日付はないのですが、その時のものと思われます。又水嶋氏提供のプログラムには「招待音楽会、三次高等学校講堂」とあり、我々はそれから旅役者となり岡山、三次方面、最後はサビエルホールと、7度に渡る熱演で大好評の内、幕を閉じました。舞台の熱演も宛ら楽屋でのメークは一層熱が入っていた事を思い出しながら出演者そしてスタッフのみなさんにもう1度拍手喝采を。

うるわしき 手古奈

甦れよ 手古奈

手古奈 カムバック トゥーミー

付記

私の朧ろな記憶に、当時の友人、先輩からのお話と貴重な楽譜や記録をお借り出来たお蔭で42年前が甦ってまいりました。ご協力感謝いたします。

- 1月13日 ウィーン少年合唱団来広。来学交歓会。
- 2月19日 第11回定期演奏会。(サビエルホール)
- 3月18日 スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
バッハ:《ヨハネ受難曲》
- 7月29日 事務棟新築完成。(現在の本部棟の位置)
- 8月 1日 全国カトリック学生連盟大会本学にて開催。
- 10月6~12日 エリザベトコンサート。(米子、松江、浜田、萩、下関)
- 10月14日 第12回エリザベトコンサート。-ソロ、合唱、室内楽-
- 11月 5日 文部省視学官諸井三郎氏来校、講演。
- 11月20日 フランス大使および同神戸総領事ご夫妻来校。
- 11月23日 第12回定期演奏会。モーツァルト:《戴冠ミサ曲》他
- 12月24日 「クリスマスの集い」。(広島市公会堂)



■第11回定期演奏会



■ウィーン少年合唱団



■第12回定期演奏会



■完成した事務棟

4期生の頃 4期 水嶋 元子(花岡)

在学していた1956(昭31)年頃に思いを馳せてみると、数多くの合唱曲の演奏が、ゴースン師のエネルギッシュなお姿と共に浮かび上がってくる。同年12月のクリスマス・コンサートでは、オネゲルの「クリスマス・カンタータ」とブリテンの「キャロルの祭典」の本邦初演?を行っているし、翌年3月にはバッハの「ヨハネ受難曲」を全曲演奏した。

またその前の秋の山陰演奏旅行(米子、松江、浜田、萩、山口)でも、グレゴリオ聖歌、ポリフォニー、古典から現代迄の合唱曲を演奏している。4期生は本当に良く歌った。

そうしたハーモニーの中から、2年後には奥中百合子さんがベルギーのヴァン・レモートル指揮・大阪フィルハーモニーとベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を共演してピアニストとしてデビューしたし、更に数年後には中原健二さんが、第32回毎日音楽コンクール作曲部門(管弦楽)で第2位に入賞した。



■聖歌集改訂委員会



■第13回定期演奏会



■ゴーセンス学長欧州出発



■クリスマスの集い(広島市公会堂)

- 1月 1日 『芸術と神秘』創刊。(第19号まで続く)
- 2月 7日 ローマ教皇使節秘書来校。
- 3月 9日 第4回スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
バッハ:《ヨハネ受難曲》。
- 3月12日 聖歌集改訂委員会第1回会合。
(『公教聖歌集』の改訂増補を行い、1965年クリスマスに『カトリック聖歌集』として出版。)
- 4月15日 R.ヘルマンズ駐日ベルギー大使来校。
- 5月 2日 パリ・木の十字架少年合唱団来広、世界平和記念聖堂にて交歓会。
- 5月 4日 エリザベトコンサート。(福山)ー合唱、ソロ、室内楽他ー
- 5月26日 フリINGS枢機卿来校。
- 6月 8日 エリザベトコンサート。(後藤純子講師送別演奏会)
- 7月18日 第5回スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
- 10月6~13日 演奏旅行。(戸畑、長崎、佐世保)
- 10月13日 エリザベト音楽短期大学合唱団演奏会。(広大三原分校講堂)
- 11月 5日 ゴーセンス学長ヨーロッパ視察へ神戸港より出発。
- 11月16日 第13回定期演奏会。
ヘンデル:《ユードス・マッカベウス》

昭和32年を振り返って 第5期 花岡 一郎

昭和33年3月に卒業しました。今から40年も昔のことになりますので、記憶の方が定かではありません。当時のことを知る手がかりを、いろいろさがしてみましたが見当たりません。唯一のものといえば、色あせた赤い表紙のアルバムでした。このアルバムを手がかりに、当時の記憶をたどってみたいと思います。

まず、卒業式にゴーセンス学長がおられなかったことです。卒業証書はロールシャイテル学長補佐より頂きました。ゴーセンス学長は32年の秋、ヨーロッパを訪問されておられたからです。何でも、エリザベト音楽大学の発展のためにヨーロッパを訪問されたと同じでした。

大学の敷地内では、現在の玄関あたりに3階建の校舎を建てる工事が行われていました。また、アルバムにはゴーセンス学長の歓送会を、大学の講堂で学生と教職員を交えて盛大に開催したり、神戸港まで卒業生や在校生が見送ったりしております。

卒業前、私たちはゴーセンス学長に声のメッセージを送りました。

楽しみのひとつになっておりました演奏旅行には、小倉・佐世保・長崎と回っております。演奏旅行にまつわる楽しい思い出も沢山ありました。大学全体としては、学生数は少なくたいへん家庭的な雰囲気でした。

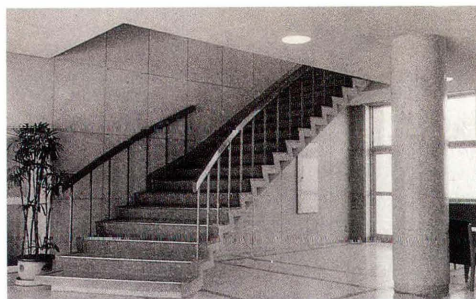
50年を迎えた今日、このようなすばらしいエリザベト音楽大学に発展したのは、昭和32年のゴーセンス学長のヨーロッパ訪問にあるような気がいたします。

エリザベト音楽大学のますますの発展を祈りながら、思い出のアルバムを閉じます。

- 2月15日 新校舎(旧2号館)上棟。
- 3月28日 関西交響楽団演奏会。(本学主催、市公会堂)
指揮:ヴァン・レモートル
- 3月29日 指揮者ヴァン・レモートル氏来校。
- 4月15日 特別講演会。(上智大学教授エルリン・ハーゲン)
- 4月20日 本学校舎工事現場で火事。
- 6月10日 旧2号館完成。
- 6月21日 欧州視察中のゴーセンス学長帰広。
- 7月10日 附属図書館を講堂より旧2号館3階(301号教室、LL教室)に移転。
- 10月 4日 創立10周年記念式典および校舎(旧2号館)落成祝別式。
ローマよりイエズス会東洋副総裁デ・スーザ神父来校。
山本寿、太田司朗、村上清人、山本千恵子、山本雪子
各先生勤続10年の表彰。
- 10月 4日 第6回スピリチュアルコンサート。
(創立10周年記念行事、世界平和記念聖堂)
ペルゴレージ:《スタバト・マーテル》他



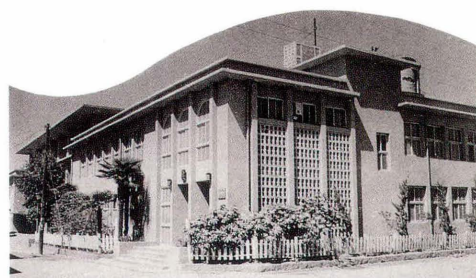
■ロールシャイテル学長補佐



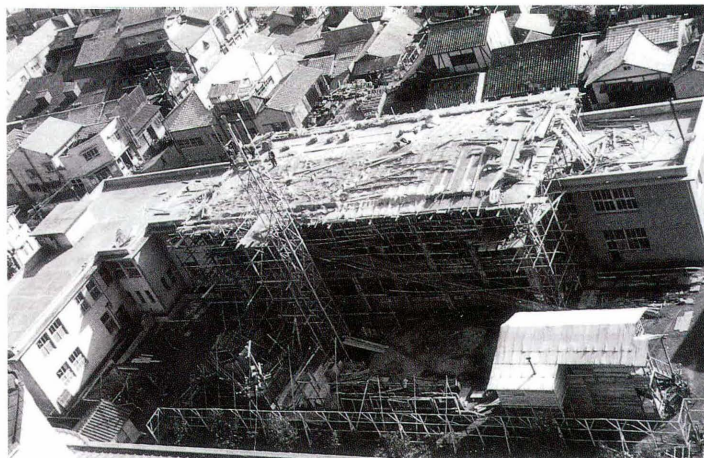
■玄関ロビー



■演奏会後の記念写真



■大学全景



■旧2号館上棟

昭和33年の思い出 6期 前原 瑠美子(中村)

エリザベト音楽大学創立50周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。短期大学時代に学んだ私は、博士後期課程設置にまで発展した今日を目の当たりにし、感慨無量です。

昭和33年度は創立10周年を迎え、記念式典、3階建の本館落成式とおめでたい年でした。その反面ゴーセンス学長は欧州視察のため、32年11月より33年6月まで不在という寂しい半年でもありました。先生方から先輩の演奏旅行でのご活躍をお聞きしましたが、私達はその喜びを味わうことはなかったのです。演奏旅行がない代り、縮景園で話し、茶臼山で楽しんだひとときは、40年経った今でも親しくお付き合いさせて頂く幸せを感じております。

世界平和記念聖堂での「スタバト・マーテル」のスピリチュアルコンサート、サビエルホールでのオラトリオ「至福」(フランク作曲)の演奏会は感動の連続でした。宗教曲を通して音楽教育の原点を学び、教育現場においてはその経験が私を支えてくれ感謝しています。